



# 若竹だより



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

- 【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう  
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

## 【巻頭言】

### 巣立ちの時

園長 宮竹 恒

平成 31 年 3 月 25 日（月）、多数のご来賓、保護者の皆様方のご臨席のもと、平成最後の卒業証書授与式並びに卒園式を挙げていたしました。ご参加頂きました皆様方、卒園生・卒業生の成長を見守ってくださった方々にあらためて感謝申し上げます。

さて、式の前々日の夕刻、学園では突然、音を立てて霰が降り、園庭・園舎周辺が白く包まれました。また、雷鳴が響き、子どもたちも驚いていました。まさに春雷、春の訪れと同時に新しい時代の始まりの予兆のようでした。そして、前日、巣立っていく卒園生から「最後だから、みんなと一緒に寝たい」という希望があり、ふれあい（共用・娯楽スペース）で和気あいあいと就寝することになりました。普段は個室で生活している子ども達ですが、仲間として過ごしてきた積み重ねを感じさせられました。

この 2 日間は、五色台の自然に見守られ、仲間と 3 食を共に過ごしてきた学園生活の総括のようでした。

巣立っていく卒園生は、各々、次の目標を持っています。将来の夢を語ってくれた卒園生もいます。そして卒園生に共通して感じられるのは、学園生活の始め、あるいは途中から、自分の課題に向き合い、「勉強が出来るようになる。」「自分に向き合う。」「友達と

仲良くする。」等と、決めた瞬間があったことです。自分で目標を決めて努力したことはかけがえのない財産になったと思います。

そして、仲間や職員、先生、関係機関の方々の支えがあって、乗り越えられたことも多くあったと思います。

ある卒園生が、卒園を前に「僕の夢は、人の役に立てるようになることです。」と話すことがありました。

その言葉の中にこれまで他者から与えられてきたことへの感謝の気持ちや、自立しようとする強い意志を感じました。

卒園生の思いに、一人一人違いはありますが、巣立ちの時を迎え、新たなスタートを応援出来ることは、学園職員にとって何よりの喜びです。

卒園生のみなさんの夢や目標が実現できますことを職員一同、心より祈っています。

— 了 —

## ご寄付いただきありがとうございます。

3 月 20 日 香川銀行従業員組合様より、子どもたち一人ひとりに、ベッドマットレス 30 枚、タオルケット 30 枚をご寄付いただきました。誠にありがとうございました。



# 青峰・若竹学級だより 3月

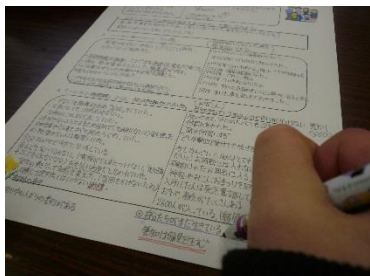
## 明日へはばたけ

3月も終わりを迎え、一年間の締めくくりの時期となりました。そんな中、子どもたちは学校生活に一生懸命取り組むことができました。

保護者の皆様、原籍校の先生方におかれましては、温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。

## 正しい知識を身につける

小中合同でハンセン病差別についての学習を行いました。DVDを視聴し、提示された資料を元に自分の考えを持ち、そして、友だちと意見交流することを通して、正しい知識を身につけることや互いに認め合っ  
て共に暮らしていくことの大切さを学びました。



## 五感で春を感じる

中学三年生が受験を終えた 3月 15日(金)、園生みんなで春のフィールドワークに出かけました。

途中立ち寄った根香寺では、満開の梅の花や



木々が芽吹く様子に五感を働かせ、春を感じました。

五色台少年自然センターのフィールドアスレチックや運動広場では、やわらかい春の日差しの下、大いに体を動かさせて、さわやかな汗をかきました。

## 進路を切り拓く

優れた運動能力を生かし、各種大会に出場し、自信をつけた A 君。将来は、消防士になるという夢を持ち、ひたむきに学習に取り組み、私立高校に合格しました。また、数学が苦手だった B さん。級友と競い合うように計算プリントに取り組み、すらすらと計算ができるようになりました。



このように 本年度の中学三年生も、上級生としてあるべき姿を下級生に示し、『なかまとともに力強く進路を切り拓く』青峰学級の伝統をより確かなものにしてくれました。卒園後、それぞれ進むべき道は異なりますが、各自が夢と希望を持って生きていけるよう、私たち教職員も若竹学園職員の方々とともに支援していきたいと考えています。

# 卒業証書授与式 卒園式

3 月 25 日若竹学園にて、卒業証書授与式・卒園式が執り行われました。緊張した顔つきで入場した卒業生・退園生でしたが児童相談所合田所長様始めたくさんの方からの激励の言葉や



お祝いの言葉をいただき次第に涙がこぼれる子どももいました。

今年度は若竹讃歌の伴奏、指揮を卒園生が務めたり、合唱部から歌のプレゼントがあったりと子ども中心で築き上げた式となりました。



送辞・答辞では、涙を我慢しながらも、これから高校生になる中学 3 年生へ、学園に残る後輩へのそれぞれ

に言葉を送りました。時には言葉をつまらせながらも、大きな声ではっきりと伝えていました。

式の後には、スライドショーの上映、太鼓演奏、記念写真撮影、立食パーティーを行いました。スライドショーは四恩の里の 25 周年の記録と園生や職員たちと過ごした若竹学園での思い出を上映しました。卒園生との懐かしい日々を振り返って、「こんなことがあった

ね!」と笑ったり涙を浮かべる子もいました。太鼓演奏は、みやげ太鼓と若竹太鼓を行いました。卒園生も参加し、最後に協力して一生懸命太鼓を叩く姿に、お客様から拍手をいただきました。

立食パーティーでは、子どもたちが選んだ献立がテーブル一杯に並びました。みんなで美味しくいただきました。



## メンズが頑張りました!

3 月の食育は、ホワイトデーということで、男子のみなさんががんばってお菓子を手作りしました。

みんな器用で手早く終わったのが印象的でした。



た。チョコを溶かして混ぜる単純な作業でしたが、楽しそうにわい

わいと作っていました。ラッピングも上手に出来ました。

つくったお菓子はおやつの際に、女子と一緒にみんなで食べました。おいしかったようで、顔をほころばせていました。





# スポーツ大会

3 月 17 日、  
児童福祉連合  
スポーツ大会  
のソフトバレー  
ボール競技  
に参加しまし



た。大会に向けて練習をしてきましたが、天候  
が悪い日も多く満足に練習することができま  
せんでした。



当日は、高松  
東ロータリー  
クラブ様から  
寄贈頂いたユニ  
フォームを着  
て試合に臨

みました。『勝ち負けにこだわらないで、楽し  
くやろう』という合言葉を掲げて、2 勝するこ  
とができました。優勝とはいきませんでした  
が、仲間と楽しくできたことは優勝よりも価値  
があったのではないかと思います。

## 人事異動

平成 31 年 4 月 1 日付

児童指導員 松下幸太郎 亀山学園に異動

### お世話になりました。

若竹学園では 7 年間勤務させて頂きました。  
就職をしてこの若竹学園での月日があつとい  
う間に過ぎました。指導員になって子どもた  
ちの日々の成長を生活の中で見るのが本当  
に嬉しかったです。

多くの職員や子どもたちに支えられて自分  
も大きく成長出来ました。若竹学園で学んだ  
経験を活かし、亀山学園でも子どもとともに  
成長できるように頑張っていきたいと思いま  
す。

いままで本当にありがとうございました。

## 3 月行事

2 日・16 日	図書館学習
10 日	食育・ホワイトデー
17 日	スポーツ大会
25 日	卒園式・退園式

### 在籍人数

平成 31 年 4 月 1 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	4	0	4
	中学生	4	0	4
	計	8	0	8
女 子	小学生	1	0	1
	中学生	3	1	4
	計	4	1	5
合計		12	1	13

**編集後記** 3 月は別れの季節ですが新しい出  
会いも待っています。大人も子ども新しい  
場所での活躍を期待しています。

保育士 田窪 識

### 第 301 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール [wakatake@4on.or.jp](mailto:wakatake@4on.or.jp)

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒

